住友電工
Connect with Innovation

2026年度上期の業績と年間の見通し

社長　井上 治

住友電気工業株式会社
2026年11月12日

SUMITOMO ELECTRIC GROUP

目次

1．2026年度上期の業績

1．連結業績概要
2．上期業績推移
3．セグメント別売上高・営業利益
4．貸借対照表
5．フリーキャッシュ・フロー

2．2026年度年間の見通し

1．事業環境サマリー
2．連結業績予想
3．通期業績推移
4．セグメント別売上高・営業利益

3．各セグメントの状況と取組み

1．環境エネルギー
2．情報通信
3．自動車
4．エレクトロニクス
5．産業素材

4．トピックス

1．欧州電力ケーブル事業
2．レドックスフロー電池

5．企業価値向上に向けて

1．中期経営計画2028
2．ROIC改善の取組み
－1．収益力向上に向けた取組み
－2．資産効率改善の取組み
3．設備投資計画
4．ROE・セグメント別ROIC
5．五方よし
(マルチステークホルダーキャピタリズム)
6．株主還元・配当

（ご参考）

・上期業績推移（セグメント別）
・通期業績推移（セグメント別）
・営業利益の増減益要因

1．2026年度上期の業績

1－1．連結業績概要

億円	24年度上期 実績	25年度上期 実績	26年度上期 予想	**26年度上期 実績**	前年同期比 増減率
売上高	22,478	23,735	26,400	**27,649**	+16%
営業利益	1,193	1,530	1,950	**2,196**	+43%
経常利益	1,217	1,555	2,010	**2,312**	+49%
親会社株主に帰属する中間純利益	758	979	1,400	**1,594**	+63%
配当（円/株）	9.0	12.5	19.0	**19.0**	
		米ドル：146円 ユーロ：168円 銅建値：1,461千円		米ドル：159円 ユーロ：184円 銅建値：2,278千円	

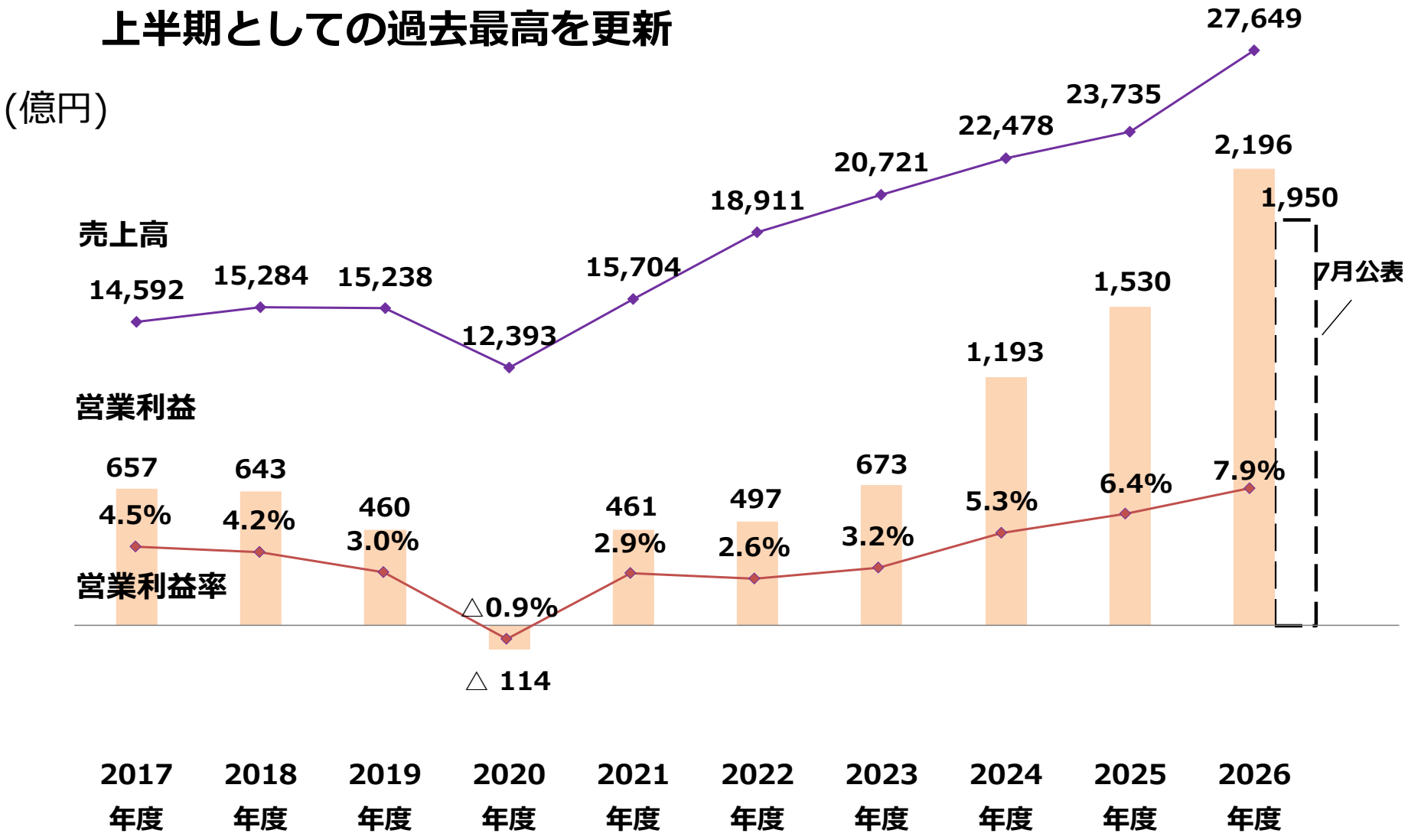
データセンター向け光配線製品・光デバイス、電力ケーブル、ワイヤーハーネス、FPC、超硬製品等が増加。円安や銅価格上昇もあり、**前年同期比16%増収。**

営業利益は、増収に加えて、品種構成の改善、コスト低減や売値改善に取組み、また、円安の影響もあり、**前年同期比43%増益**。

売上高、**営業利益**、**経常利益**、**純利益**の全てで、上半期としての過去最高を更新。

1－2．上期業績推移

売上高、営業利益、営業利益率のいずれも
上半期としての過去最高を更新



1－3．セグメント別売上高・営業利益

情報通信、エレクトロニクス、産業素材の3つの事業セグメントで、
セグメントとしての過去最高益を更新。

億円	2025年度 上期 実績 ① 売上高	2025年度 上期 実績 ① 営業利益	2026年度 上期 7月公表② 売上高	2026年度 上期 7月公表② 営業利益	**2026年度 上期 実績 ③ 売上高**	**2026年度 上期 実績 ③ 営業利益**	前年同期比 ③－① 売上高	前年同期比 ③－① 営業利益	7月公表比 ③－② 売上高	7月公表比 ③－② 営業利益
環境エネルギー	5,360	345	5,200	220	**5,465**	**332**	+105	△ 13	+265	+112
(内、住友電設)	(990)	(86)					(△990)	(△86)		
情報通信	1,354	221	2,000	540	**2,015**	**612**	+660	+392	+15	+72
自動車	13,782	654	15,500	630	**16,166**	**538**	+2,384	△ 116	+666	△ 92
エレクトロニクス	1,973	180	2,200	260	**2,334**	**286**	+362	+106	+134	+26
産業素材他	1,882	129	2,300	300	**2,411**	**427**	+529	+298	+111	+127
合計	23,735	1,530	26,400	1,950	**27,649**	**2,196**	+3,915	+665	+1,249	+246

※　各セグメントを足し合わせた数値と、合計欄の金額の差は連結消去

1－4．貸借対照表

億円	2026年3月末①	2026年9月末②	前期末比②－①	億円	2026年3月末①	2026年9月末②	前期末比②－①
現金及び預金	2,370	**2,234**	△ 135	営業債務	4,877	**5,549**	+673
営業債権	9,482	**9,608**	+126	有利子負債	7,098	**7,957**	+859
棚卸資産	10,181	**12,198**	+2,017	その他	7,921	**8,740**	+819
有形固定資産	11,894	**12,286**	+392	負債合計	19,895	**22,246**	+2,351
投資有価証券	7,130	**8,200**	+1,069	株主資本	21,245	**22,021**	+775
その他	7,187	**7,371**	+184	その他の包括利益累計額	6,189	**6,736**	+546
				非支配株主持分	916	**896**	△ 19
				純資産合計	28,350	**29,653**	+1,303
資産合計	48,245	**51,899**	+3,653	負債・純資産合計	48,245	**51,899**	+3,653

1－5．フリーキャッシュ・フロー

億円	2025年度 上期実績①	**2026年度 上期実績②**	前年同期比 ②－①
税前中間純利益	1,581	**2,363**	+782
減価償却費	1,013	**1,094**	+81
運転資産の増減	56	△**1,643**	△1,699
その他営業キャッシュ・フロー	△131	△**420**	△289
営業キャッシュ・フロー	2,519	**1,394**	△1,126
有形固定資産の取得	△1,108	△**1,248**	△140
投資有価証券の売却	17	**76**	+60
その他投資キャッシュ・フロー	△89	△**51**	+39
投資キャッシュ・フロー	△1,181	△**1,222**	△41
フリーキャッシュ・フロー	1,338	**172**	△1,167

2．2026年度年間の見通し

2－1．事業環境サマリー

中東情勢や米中対立などの政治的・地政学的リスクの高まり、
世界的な物価上昇や金融引締めによる景気の下振れなどが懸念され、
今後の世界経済の見通しは不透明であるが、

- ✓ データセンター関連製品の需要は、さらなる拡大が見込まれる
- ✓ 脱炭素社会の進展が継続、エネルギーインフラ関連の投資活況
- ✓ 自動車は、CASE進展により中長期的な成長が期待

当社にとっての事業機会は、今後一層の拡大が見込まれる状況

上期実績及び直近の事業環境を踏まえて、業績予想を上方修正

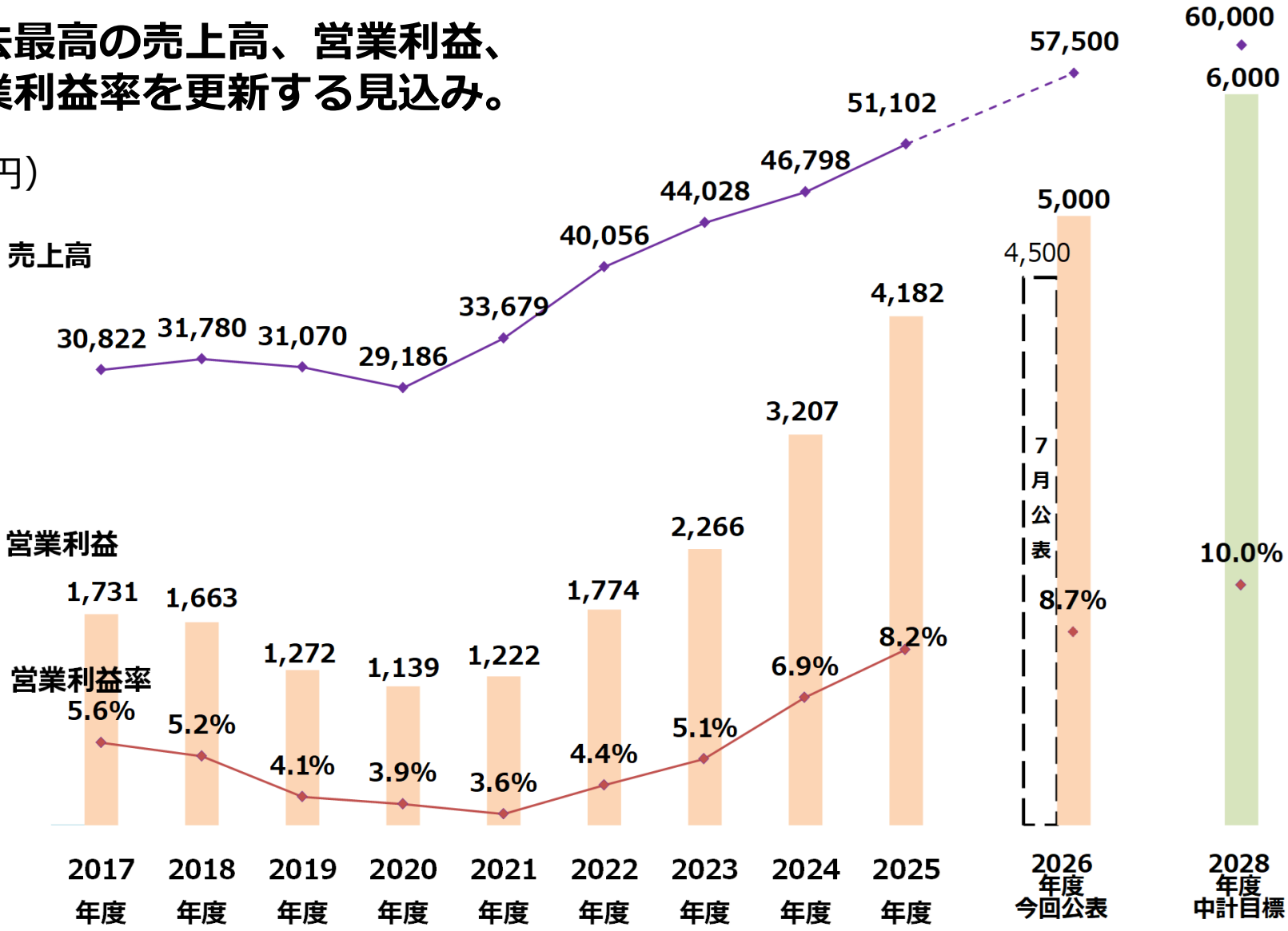
2－2．連結業績予想

億円	2025年度 実績①	2025年度	2026年度 7月公表②	2026年度 今回見直し③	前期比 ③－①	7月公表比 ③－②
売上高	51,102		54,000	**57,500**	+6,398	+3,500
営業利益	4,182		4,500	**5,000**	+818	+500
経常利益	4,313	住友電設売却益を除く	4,600	**5,150**	+837	+550
親会社株主に帰属する当期純利益	3,695	(2,993)	3,400	**3,700**	+5	+300
ＲＯＩＣ(税引前)	14.7%	(12.5%)		13.9%		
ＲＯＥ	14.7%	(11.9%)		12.9%		
			(2Q以降前提)	(下期前提)		
米ドル	151円		150円	155円		
ユーロ	175円		170円	180円		
銅建値	1,695千円		1,900千円	2,100千円		

直近の事業環境を踏まえて、7月公表を上方修正。
売上高、営業利益、経常利益、純利益のいずれも、過去最高を更新する見込み。

2－3．通期業績推移

過去最高の売上高、営業利益、
営業利益率を更新する見込み。



2－4．セグメント別売上高・営業利益

上期実績及び足元の事業環境を踏まえて、セグメント別の予想を見直し。
情報通信セグメントは、過去最高益(2025年度:774億円)を大幅に更新する見通し。

億円	2025年度 実績① 売上高	2025年度 実績① 営業利益	2026年度 7月公表② 売上高	2026年度 7月公表② 営業利益	**2026年度 今回見直し③ 売上高**	**2026年度 今回見直し③ 営業利益**	前期比 ③－① 売上高	前期比 ③－① 営業利益	7月公表比 ③－② 売上高	7月公表比 ③－② 営業利益
環境エネルギー	11,788	906	10,900	500	**11,700**	**620**	△88	△286	+800	+120
(内、住友電設)	(2,284)	(256)					(△2,284)	(△256)		
情報通信	3,266	774	5,000	1,330	**5,100**	**1,560**	+1,834	+786	+100	+230
自動車	29,372	1,797	31,000	1,800	**32,900**	**1,650**	+3,528	△147	+1,900	△150
エレクトロニクス	4,091	395	4,200	370	**4,500**	**410**	+409	+15	+300	+40
産業素材他	3,884	314	4,600	500	**5,000**	**760**	+1,116	+446	+400	+260
合計	51,102	4,182	54,000	4,500	**57,500**	**5,000**	+6,398	+818	+3,500	+500

※　各セグメントを足し合わせた数値と、合計欄の金額の差はセグメント間消去

3．各セグメントの状況と取組み

3－1．環境エネルギー

事業環境

・脱炭素社会の進展が継続。
エネルギーインフラに関わる投資が国内外で活況で、電力ケーブルや受変電設備の需要が引き続き堅調。

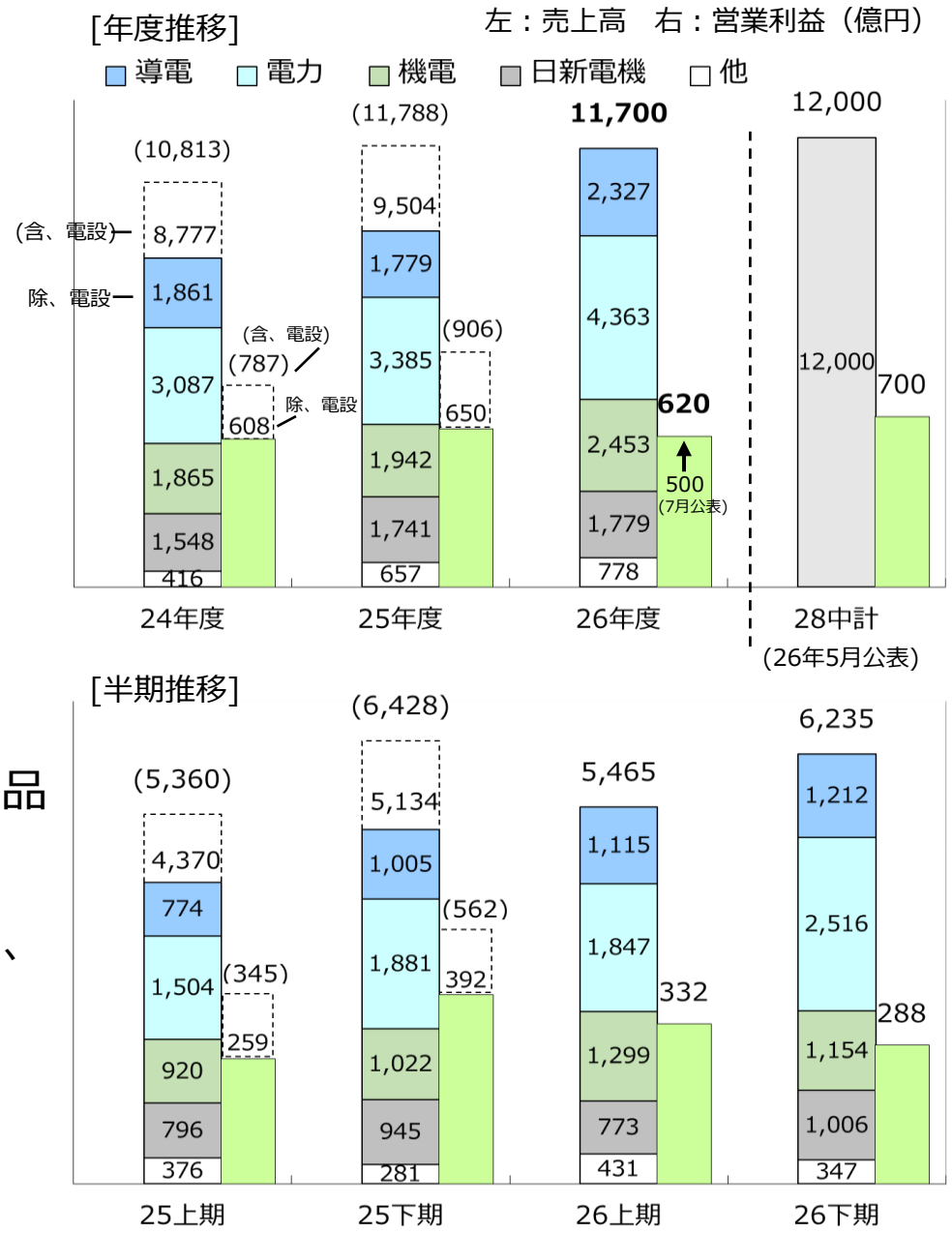
・電動車モータ用平角巻線の需要堅調。

取組み事項

✓ 電力ケーブルの受注拡大、欧州新拠点立上げ、コスト低減、品質向上、新製品開発、プロジェクトマネジメント強化

✓ 受変電設備の生産能力増強、受注拡大、環境配慮製品の開発・提案強化

✓ 電動車用平角巻線のコスト低減、次世代品開発

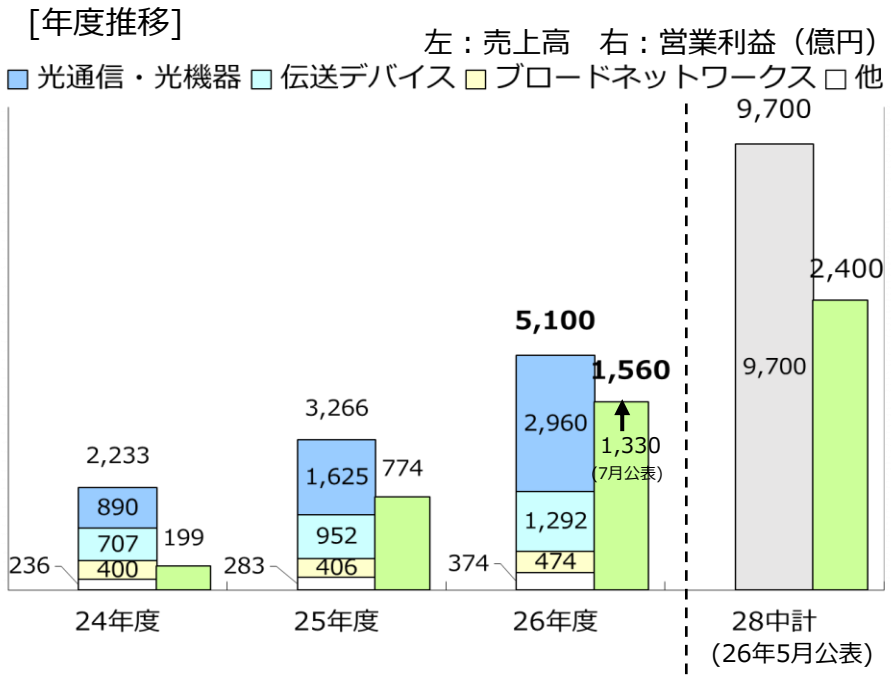


3－2．情報通信

事業環境

・データセンタ事業者の設備投資は増加が継続しており、関連製品（光配線製品、光ケーブル、光デバイス、化合物半導体基板）の需要が更に拡大。

・データ通信量増加とともに、高速化・低遅延化・低消費電力化への要求が一段と高まる。

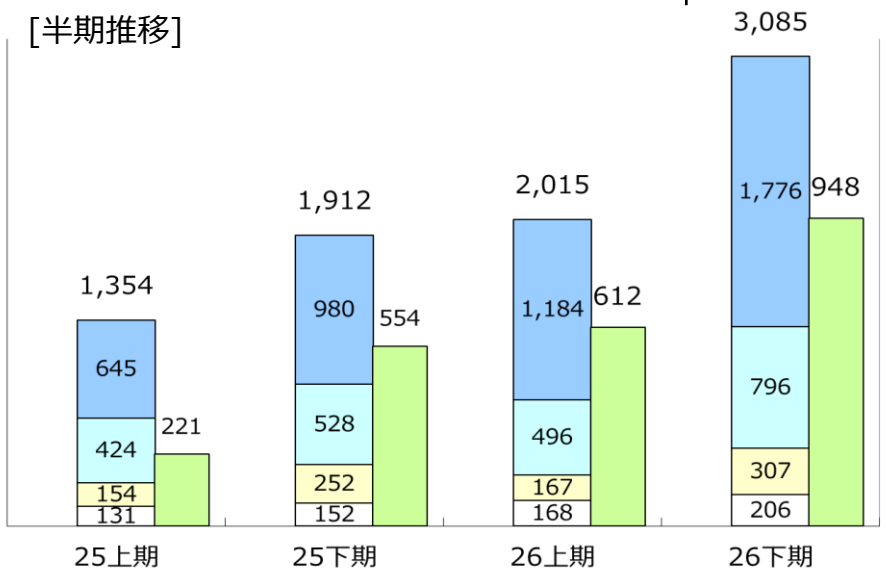


取組み事項

✓ データセンター関連製品(光配線製品、光ケーブル、光デバイス、化合物半導体基板)の生産能力増強、拡販、開発

✓ 海底ケーブル用極低損失・大容量光ファイバの生産能力増強、拡販、開発

✓ 高効率なGaNデバイスの開発、拡販



3－3．自動車

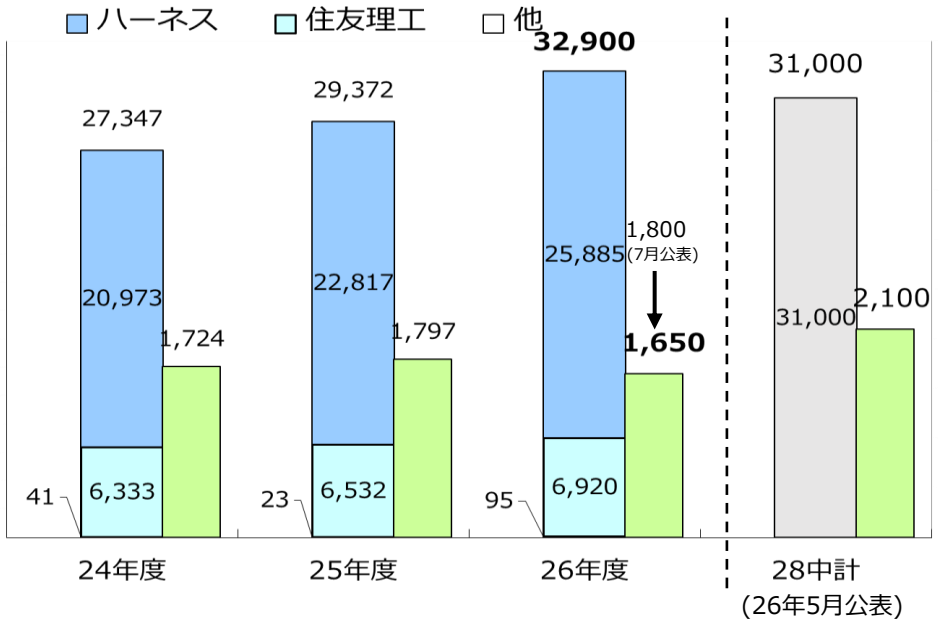
事業環境

- 世界自動車生産は略前期並みを見込む。
- 燃料高騰を背景に電動車需要が拡大。
  また、車両の高機能化・知能化に
  対応するコネクティッド製品等の
  引合いも増加。
- 中東情勢影響による原材料価格上昇や
  銅価格上昇が損益の下押し要因に。

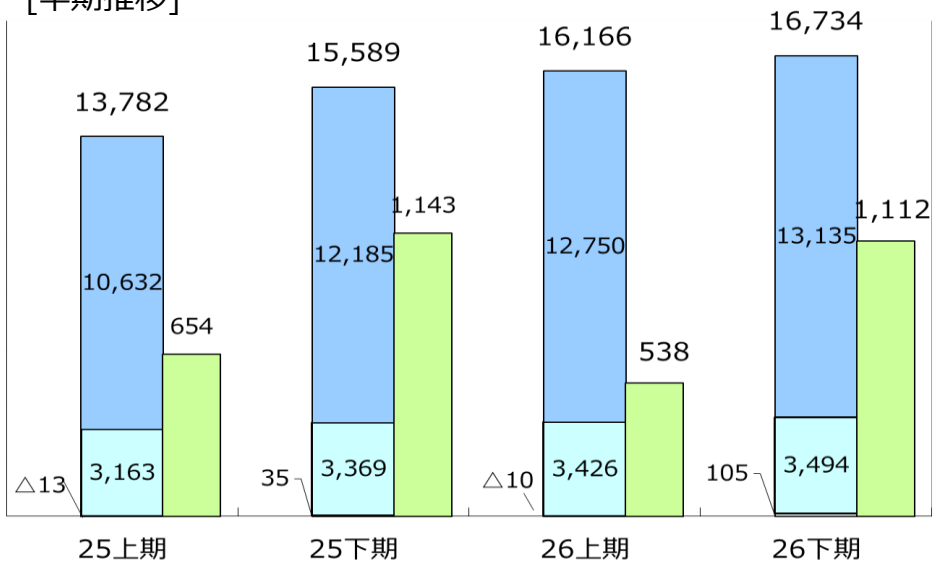
取組み事項

- ✓ グローバル供給体制の強化
  (DX・AI活用、サプライチェーン改革、
  「スマートファクトリー構想」推進)
- ✓ CASE対応新製品の開発・拡販、
  新規顧客獲得、新市場開拓
- ✓ 住友理工を含めたグループ総合力の
  発揮によるシナジー創出

[年度推移]　左：売上高　右：営業利益（億円）



[半期推移]



3－4．エレクトロニクス

事業環境

・FPCは、主要顧客向け需要が堅調に推移。季節性により下期は需要が一服。

・電子ワイヤーは、車載・航空の需要増に加えて、医療等の新規分野も伸長。

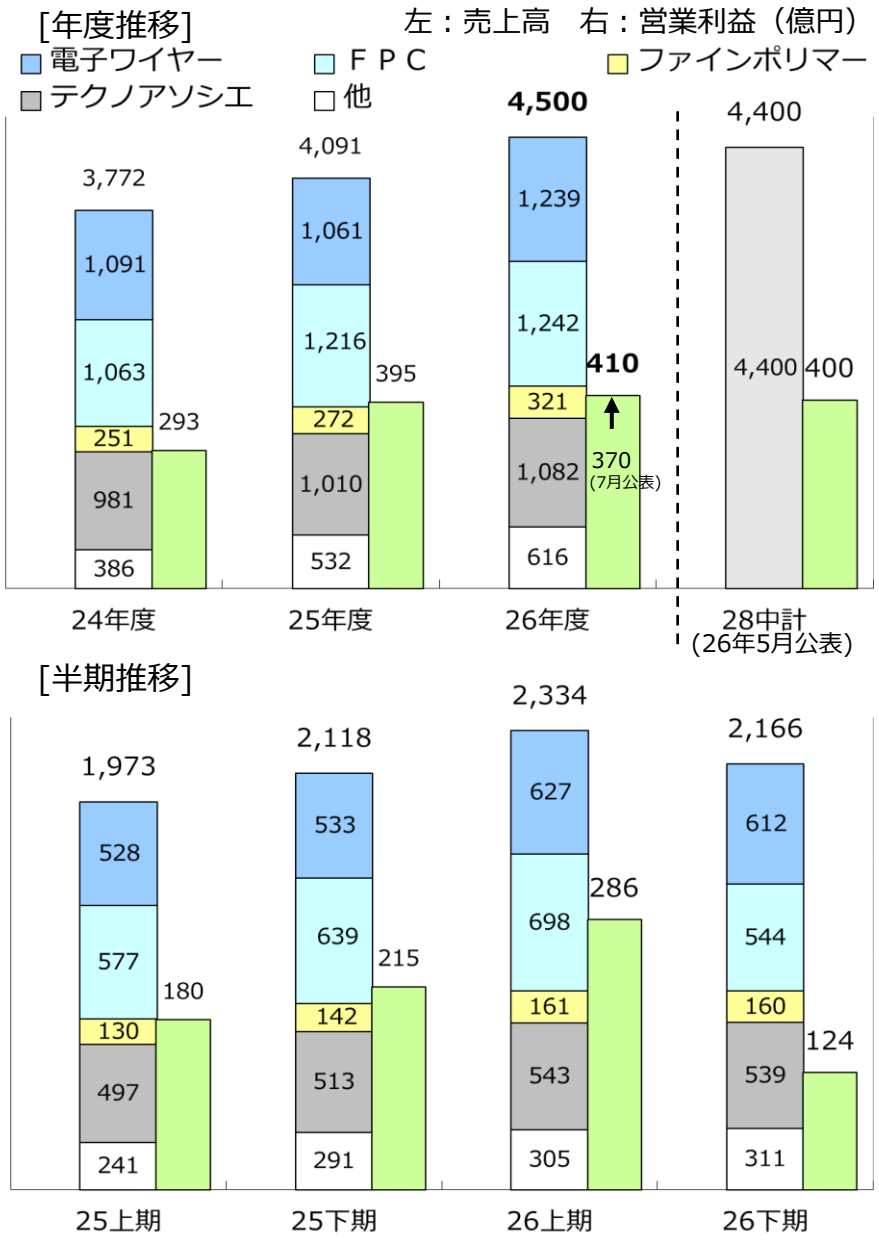
取組み事項

✓ FPCのさらなる性能向上、新規分野（データセンター関連等）への拡販

✓ 電子ワイヤーの車載・航空用の増産、新規分野（医療・宇宙・半導体装置関連等）への拡販

✓ 熱収縮チューブの自動車/航空分野シェア拡大、新規分野（データセンター関連・半導体装置関連等）拡販

✓ 徹底した総原価低減



3－5．産業素材

事業環境

・タングステン市況が高止まりする中、タングステン粉末及び超硬工具の需給逼迫が継続。

・航空機向け、半導体向けなど難削材用工具の需要が増加。また、インド等の新興国での需要が増加。

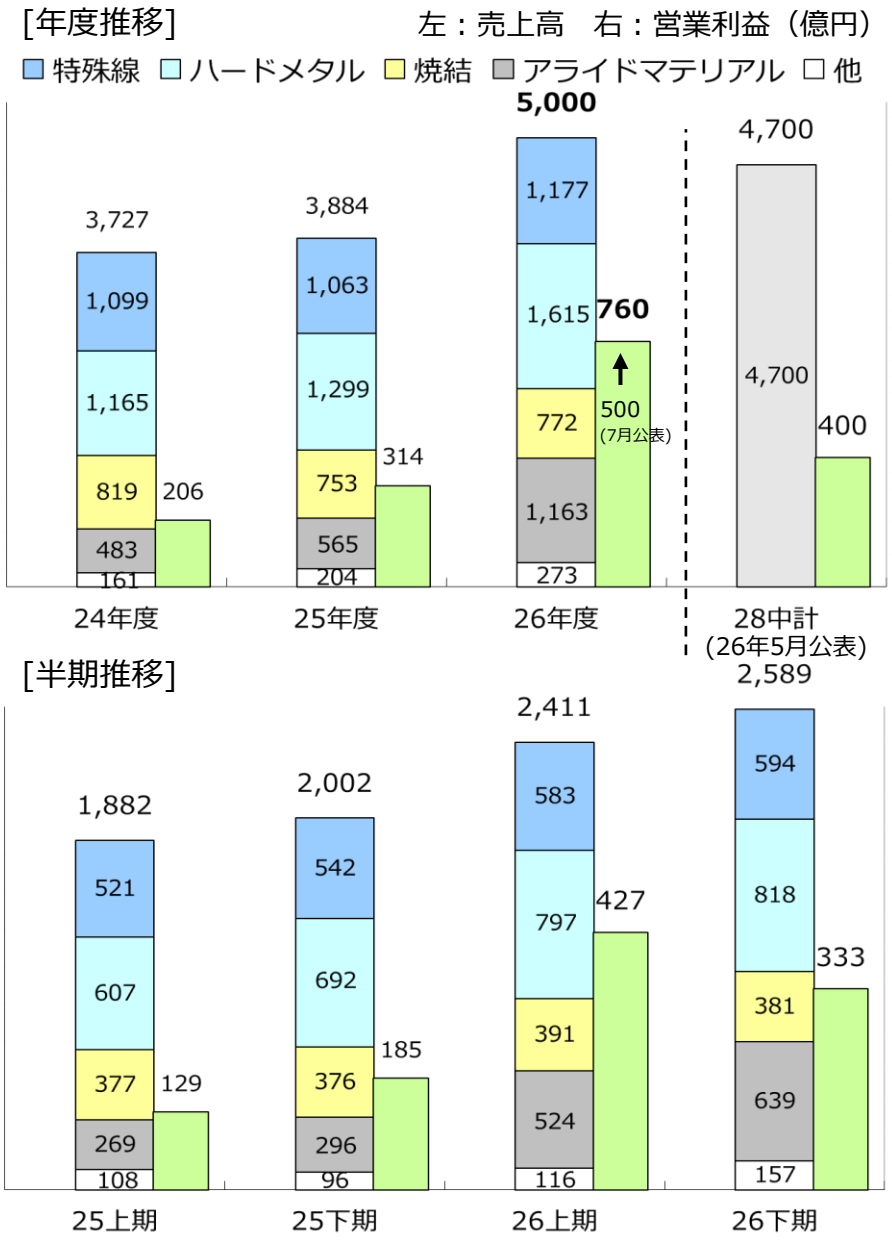
取組み事項

✓ 超硬製品のグローバルな拡販と電動車・航空機・半導体などの新規市場開拓、市場シェア拡大

✓ タングステン材料のリサイクル強化

✓ 焼結製品の電動車・非車載向けの新製品開発・拡販、コスト競争力強化

✓ PC鋼材・ばね用鋼線の製造販売体制強化、新製品開発による収益力向上



4．トピックス

4－1．欧州電力ケーブル事業

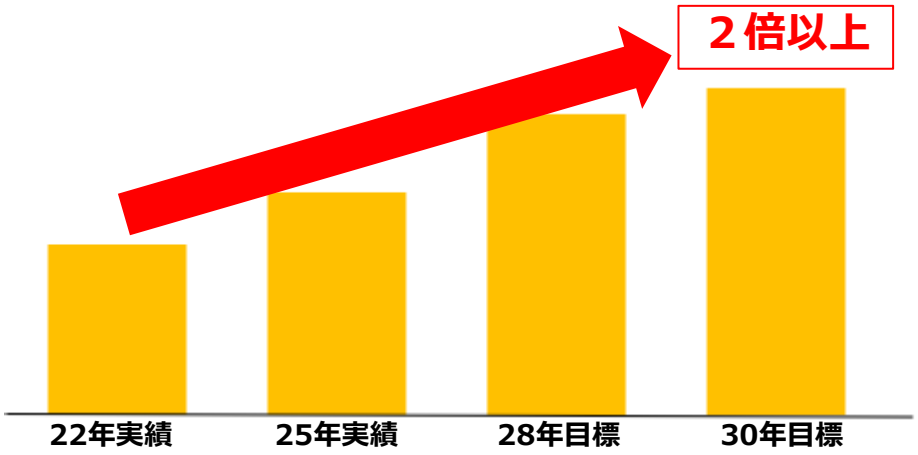
脱炭素に向け、世界的に再生可能エネルギー関連投資が増加し、
欧州中心に直流高圧電力ケーブルや海底ケーブル等の世界需要が拡大。
当社は、世界トップレベルの技術力・モノづくり力で多数の案件を受注。

当社の強み

- **技 術 力**：高絶縁性・極性反転性・90℃耐熱を可能にする絶縁材料(ｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ)の開発。
- **モノづくり力**：最大需要地の欧州に拠点設立(英・独)。ｺｽﾄ競争力・地元評価・保守即応力を向上。
- **実績**：NEMO LinkやGreenlinkを納期通り完工し、無事故運転継続中。施工品質含め、顧客から高評価を獲得。

当社 電力事業の中期目標(全世界合計)

30年度売上高目標：22年度比 2倍以上を目指す。



当社の欧州での案件受注状況

国	案件名	陸/海	電圧/ｹｰﾌﾞﾙ長	完工時期
英国-ﾍﾞﾙｷﾞｰ	NEMO Link	海	400kV/283km	19年
英国－ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ	Greenlink	海	320kV/380km	24年
英国	Shetland2	海	525kV/660km	32年予定
英国	Sea Link	海	525kV/254km	31年予定
ドイツ	A-Nord (南北線)	陸	525kV/640km	28年予定
ドイツ	V49	陸	525kV/610km	33年予定
ドイツ	DC35	陸	525kV/1590km	32年予定

特に、英SSE※社・National Grid社案件、
独Amprion社案件に注力。

※Scottish and Southern Energy plc

4－1．欧州電力ケーブル事業

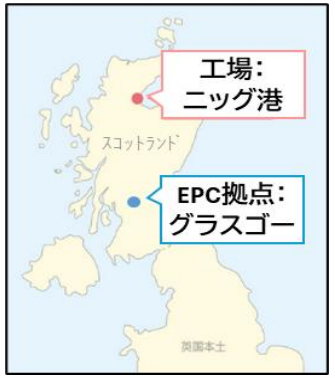
欧州市場での対応力の向上と顧客との関係強化のため、英国･ドイツに設計、製造、施工拠点を新設。

英国

SEUK社：海底ｹｰﾌﾞﾙﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの設計、製造、施工

23年5月　会社設立
24年5月　工場建設着工(投資額 350百万£)
26年10月　開所式
27年　量産開始予定

・Shetland2、Sea Linkの海底ケーブルを製造予定



ドイツ

SEP-E社：陸上ｹｰﾌﾞﾙﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの設計、施工

26年2月　会社設立

・V49、DC35の設計、施工対応予定

SüdKabel社：陸上ｹｰﾌﾞﾙ･機器の設計、製造、施工

24年10月　当社資本参加・子会社化

・A-Nord（南北線）の一部を製造中
・V49、DC35の陸上ケーブルを製造予定



欧州では、今後も直流連系線・洋上風力の旺盛な需要が見込まれ、
当社の強みを活かし実績を積み重ねることで、後続案件を獲得していく。

4－1．欧州電力ケーブル事業

2026年10月19日　英SEUK社 海底ケーブル工場の開所式を開催

＜開所式の様子＞



〈左からｼﾞｮﾝ･ｽｳｨﾆｰ ｽｺｯﾄﾗﾝﾄﾞ首相、当社松本会長、ﾀﾞｸﾞﾗｽ･ｱﾚｸｻﾝﾀﾞｰ英政府ｽｺｯﾄﾗﾝﾄﾞ大臣〉



〈参列の皆様〉



〈当社井上社長〉

4－2．レドックスフロー電池

レドックスフロー電池とは

電解液をポンプで循環させて、
イオンの酸化還元反応によって
充放電を行う大型蓄電池

還元：**Red**uction
酸化：**Ox**idation
循環：**Flow**
] **Redox Flow**



主な特長

電力系統の安定化、再生可能エネルギーの有効活用、電力レジリエンスの強化、BCP対策など、幅広い用途で引き合いが増加しており、導入拡大中

高い安全性 （極めて低い火災リスク）	電解液は不燃、その他部品は難燃性材料を使用 日本の消防法における危険物に非該当 豪州では石炭鉱山への設置プロジェクトが進行中
長寿命 （30年運用が可能）	電解液の劣化が無く、充放電による劣化の促進なし 適切な保守を行うことで30年間の運用が可能
エコフレンドリー	電解液はリユース可能、 かつ電池システム全体の99%（重量比）がリサイクル可能
ライフサイクルコスト優位性	長時間容量仕様で低ライフサイクルコストを実現

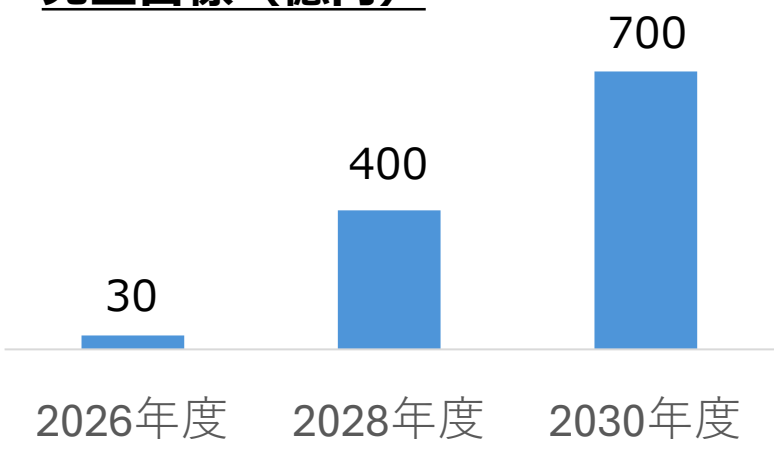
4－2．レドックスフロー電池

事業環境と当社戦略

再生可能エネルギーの導入が進展する中、電力系統の安定化対策として大容量の系統用蓄電池に対する需要が高まっている。

国内で2023年度から開始された**「長期脱炭素電源オークション」**では、2025年度より「リチウムイオン電池以外の蓄電池」を対象とする募集枠が設定され、当社のレドックスフロー電池に対する期待が一段と高まっている。こうした市場機会を着実に捉えるとともに、生産能力の強化を進めていく。

売上目標（億円）



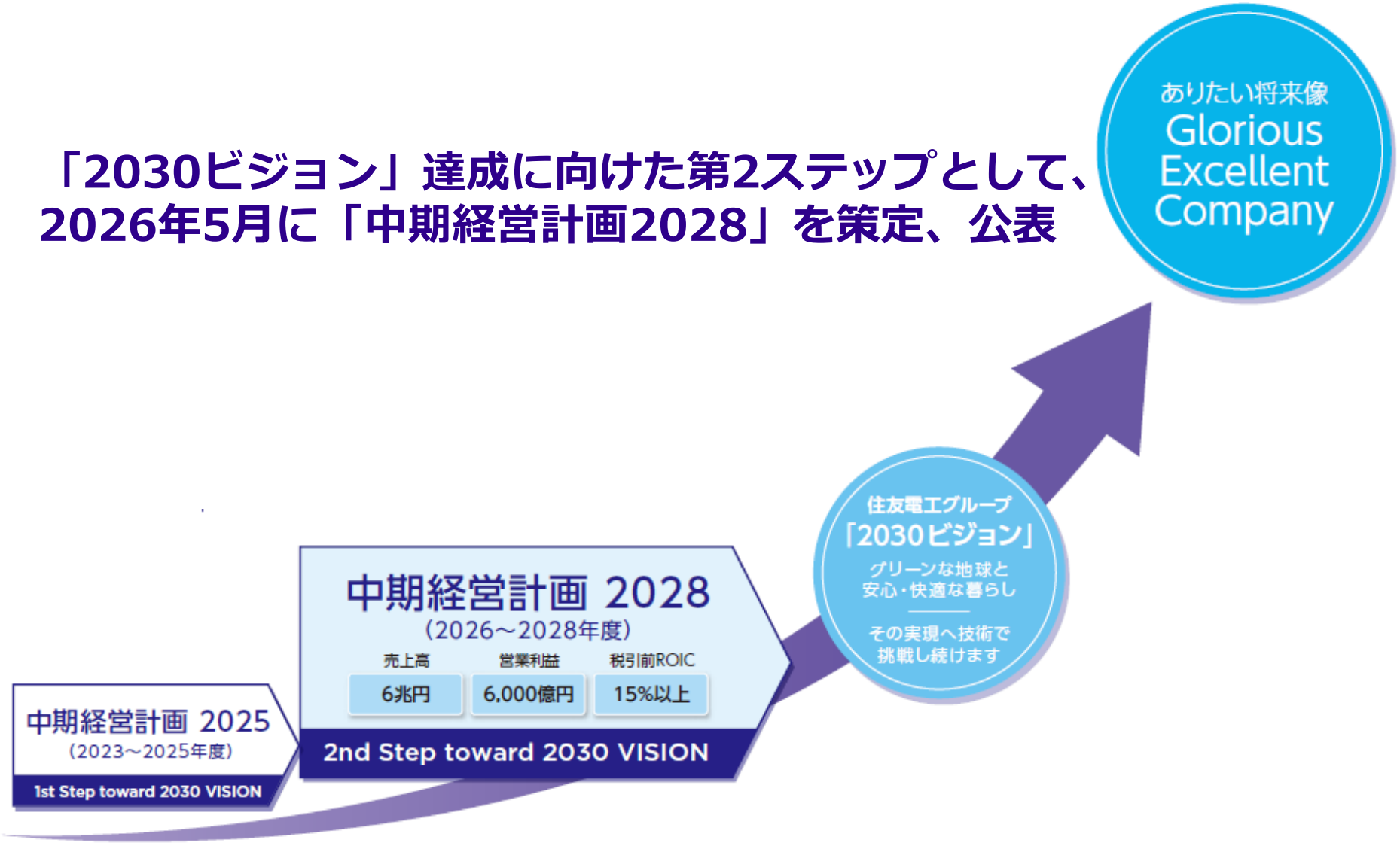
長期脱炭素電源オークション：

2050年のカーボンニュートラル実現と電力の安定供給を目的に、国が脱炭素電源への新規投資や更新を支援する入札制度。
蓄電池も対象に含まれており、2025年度のオークションでは1.2GWを超える蓄電池が落札されている。制度の運営は電力広域的運営推進機関（OCCTO）が担う。

5．企業価値向上に向けて

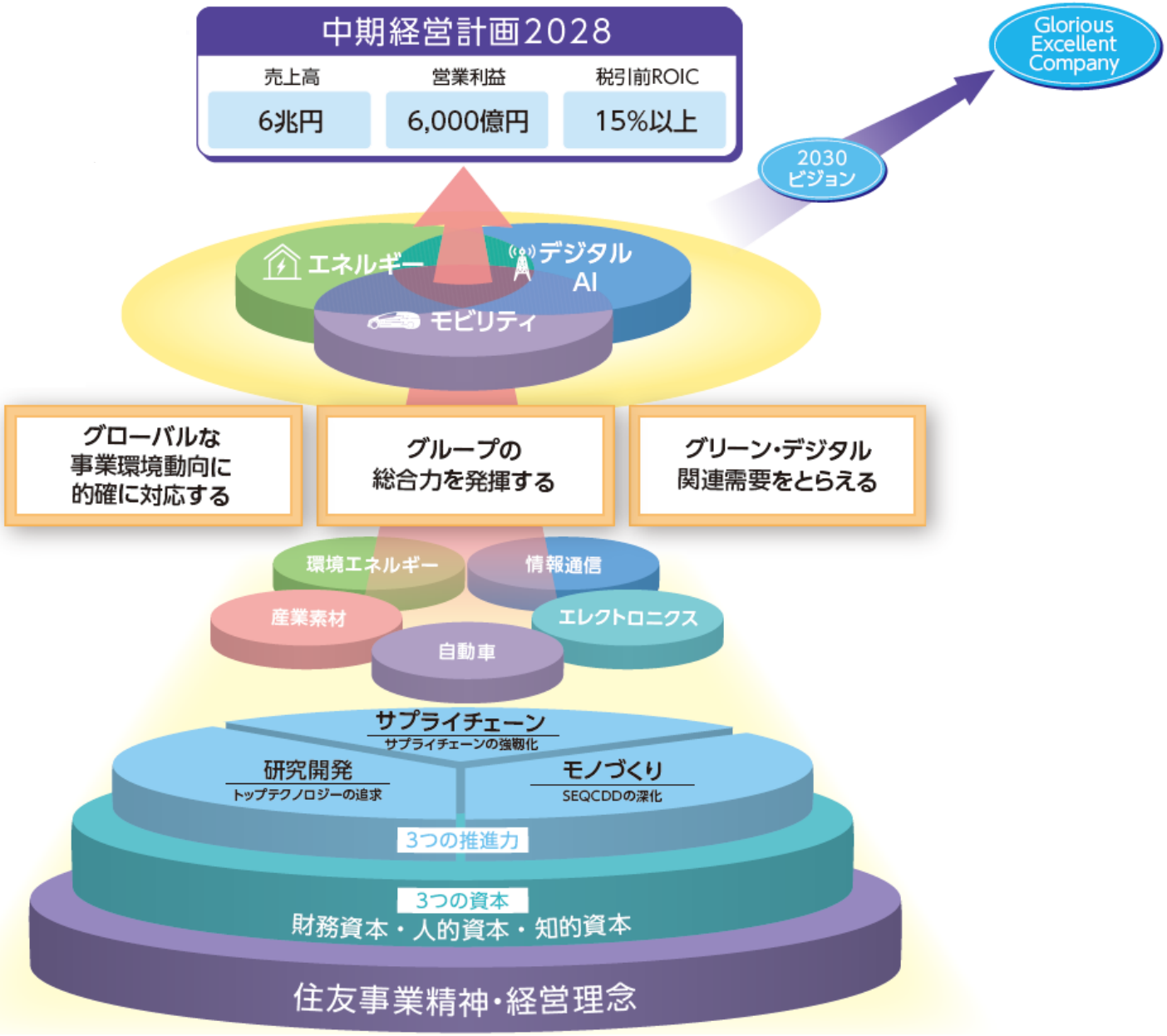
5－1．中期経営計画2028

「2030ビジョン」達成に向けた第2ステップとして、
2026年5月に「中期経営計画2028」を策定、公表



住友事業精神

5－1．中期経営計画2028



5－1．中期経営計画2028

中期経営計画2028で掲げた成長戦略と基盤強化に取り組み、成長性と効率性を追求し、持続的な企業価値向上を目指す

成長性

注力３分野
「デジタル・AI」「エネルギー」「モビリティ」

グリーン・デジタル関連製品売上高
25実 2兆円 → 28M目標 3.5兆円

研究開発費(3年累計)
23-25実 4,612億円 → **28M 5,400億円**

設備投資額(3年累計)
23-25実 6,803億円 → **28M　1兆円**

効率性

25実績　税引前ROIC　12.5%
※住友電設売却益を除いて算出　ROE　11.9%

28M目標　税引前ROIC 15%以上
ROE　13%以上

効率性を追求して、最大限にキャッシュを創出

EBITDD 2.7兆円/3年間の創出

EBITDD：営業利益+減価償却費+研究開発費

5－2．ROIC改善の取組み

効率性向上に向けて、ROICを最重要指標に設定し改善に取り組む

ROICツリー項目		重点取組事項
収益力向上	営業利益率改善	・高付加価値化による収益性向上 ・革新的技術・製法の追求 ・受注採算改善
	金利負担削減	・有利子負債削減(財務体質の健全化)
資産効率改善	ＢＳ全般	・部門別 Ｂ／Ｓ・フリーＣＦ管理強化 （部門別ＷＡＣＣの試算） ・政策保有株式見直し
	ＣＣＣ (運転資産改善)	・棚卸残高･保有日数の適正化 ・債権･債務の残高･保有日数の改善
	有形固定資産	・設備投資マネジメント （投資確度向上と投資予算運営の強化）

5－2－1．収益力向上に向けた取組み

高付加価値化　「事業の新陳代謝」に取り組み、高付加価値化を追求

環境エネルギー



超高圧直流
電力ケーブル



環境配慮型
受変電設備



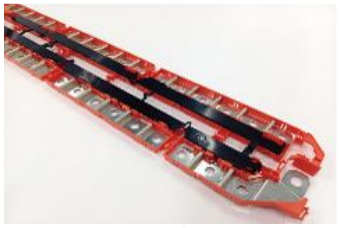
駆動モータ用
平角巻線

情報通信



データセンタ向け光通信関連製品

自動車

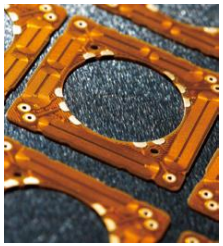


電動車用バッテリー
バスバーモジュール

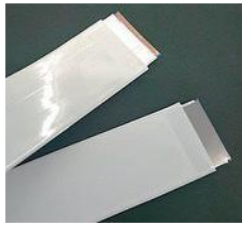


高速通信コネクタ

エレクトロニクス

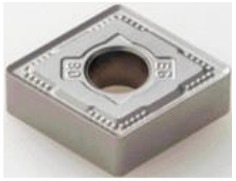


超微細回路FPC
フレキシブルプリント回路



高速伝送FFC
フレキシブルフラットケーブル

産業素材



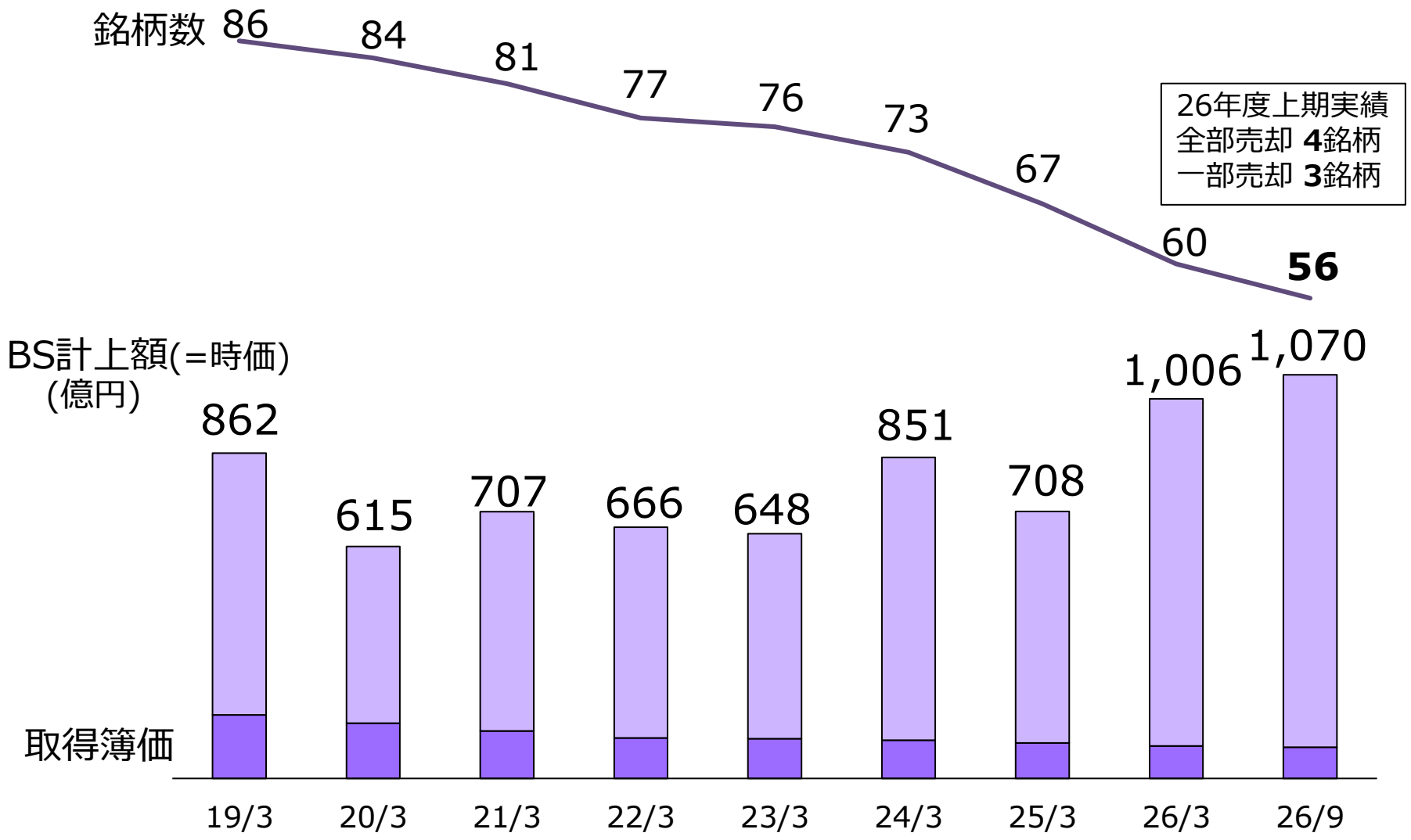
航空機向け
超硬インサート



半導体向け超硬
コーティングドリル

5－2－2．資産効率改善の取組み

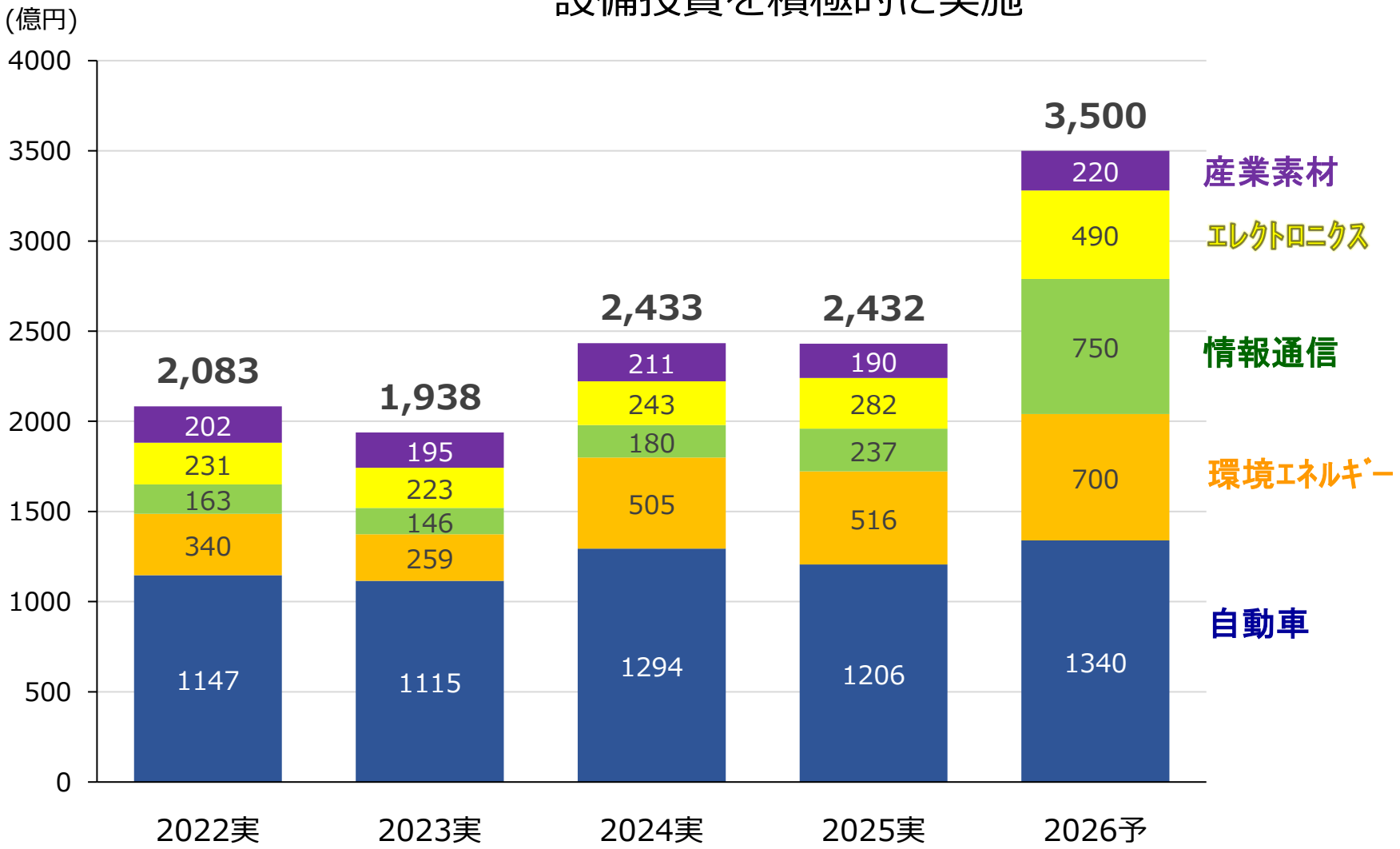
政策保有株式　**銘柄ごとに精査し、26年度も積極的に圧縮を進める**



5－3．設備投資計画

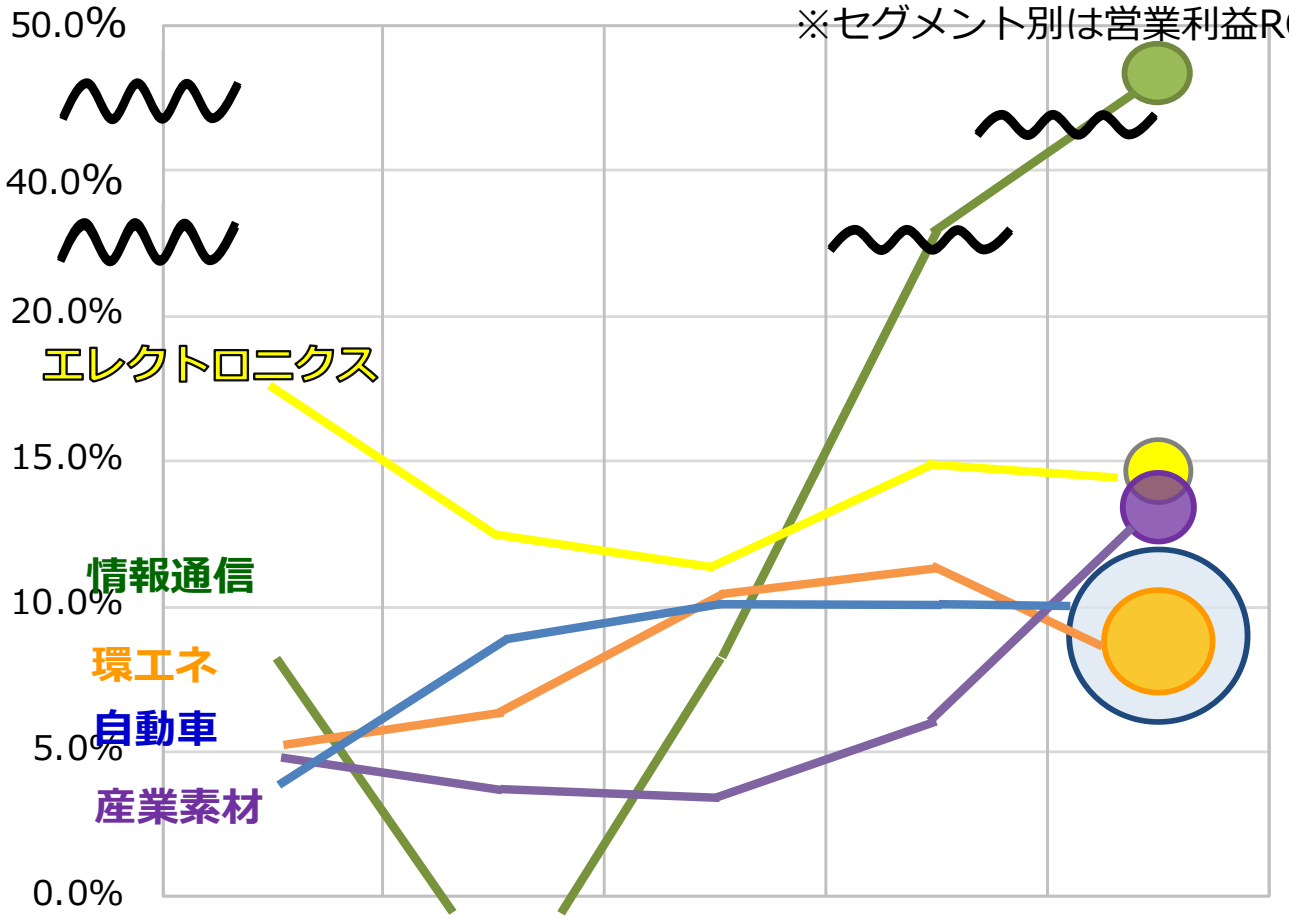
セグメント別設備投資額

情報通信、環境エネルギーを中心に
設備投資を積極的に実施



5－4．ROE・セグメント別ROIC

※図の面積は売上高に比例
※セグメント別は営業利益ROICを掲載

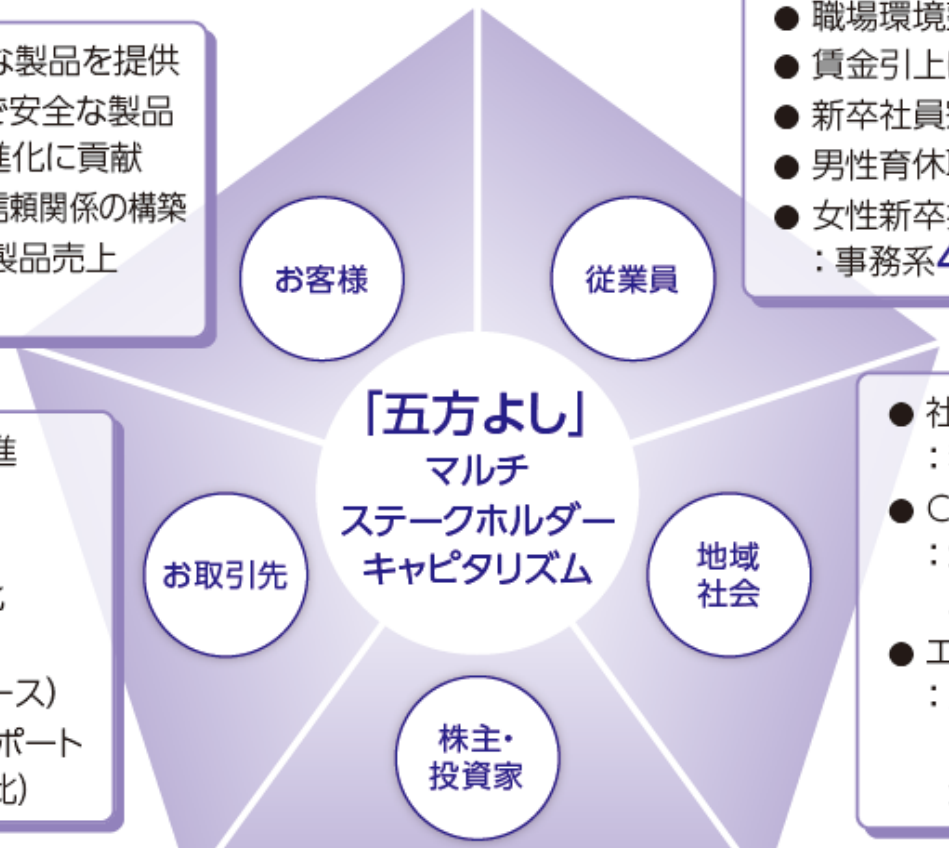


	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度予想	28年度目標
ROIC(営利)	5.9%	7.2%	9.8%	12.2%	13.4%	
ROIC(税前)	6.6%	7.6%	9.3%	※12.5%	13.9%	**15%以上**
ROE	6.1%	7.3%	8.6%	※11.9%	12.9%	**13%以上**

※住友電設売却益を含めず

5－5．五方よし（マルチステークホルダーキャピタリズム）

企業価値向上を果たし、その成果をステークホルダーの皆様と共有



- 確かな技術力で革新的な製品を提供
- ニーズに応える高品質で安全な製品により、社会や暮らしの進化に貢献
- お客様との長期・安定的な信頼関係の構築
- グリーン・デジタル関連製品売上：3.5兆円

- 職場環境整備：重大災害**ゼロ**
- 賃金引上げ：**インフレ率＋α**を努力目標
- 新卒社員寮：**100%完備**（当社）
- 男性育休取得比率：**100%**（当社）
- 女性新卒採用比率：事務系**40%**・技術系**15%**（当社）

- 価格交渉などの対話の促進
- 取引価格の適正化
- パートナーシップを通じたサプライチェーンの強靱化
- CSR調達アセスメント：実施率**80%**（取引額ベース）
- 情報セキュリティ診断とサポート：診断社数**3倍**（25年度対比）

- 社会貢献活動への拠出：税引後利益の**1%**目安
- CO_2排出量削減（18年度対比削減率）：Scope1+2 **30%**、Scope3 **22%**
- エコ活動2030：**20**以上の国/地域で**300件以上/年**の地球にイイこと

- 適時適切な情報開示
- 建設的で開かれた対話の促進
- ROE：**13%以上**
- 配当性向：**35%～40%**

5－6．株主還元・配当

（※）2026年7月1日付の株式分割を反映し、株式分割後ベースで表示

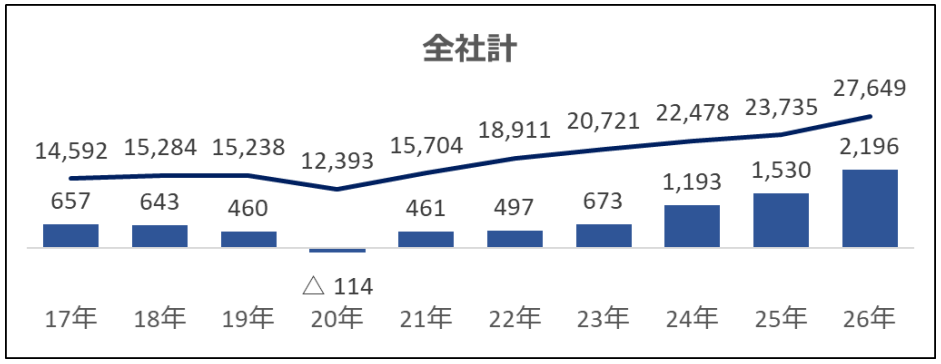


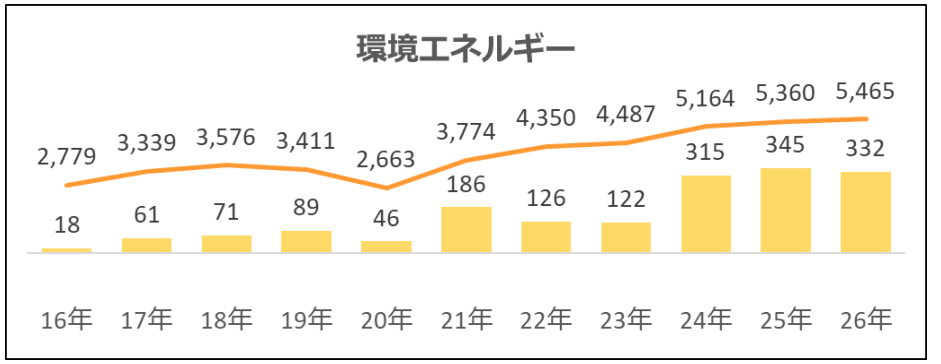
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026 前回公表	2026 今回見直し
（※）1株当り利益(円)	37.85	23.31	18.06	30.87	36.11	48.00	62.12	95.95		118.60
配当性向	31.7%	42.9%	44.3%	40.5%	34.6%	40.1%	39.0%	**40.1%**		**37.1%**

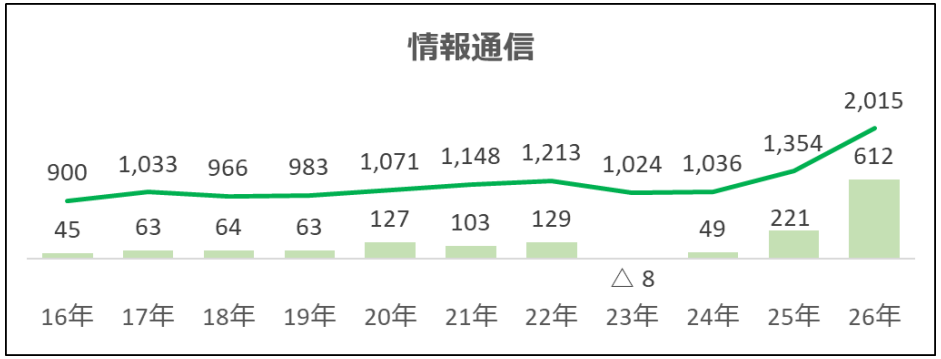
住友電設売却益を除いて算出

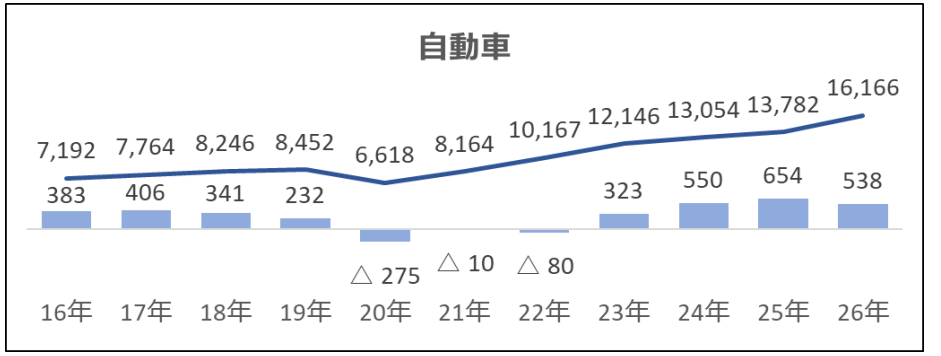
（ご参考）上期業績推移

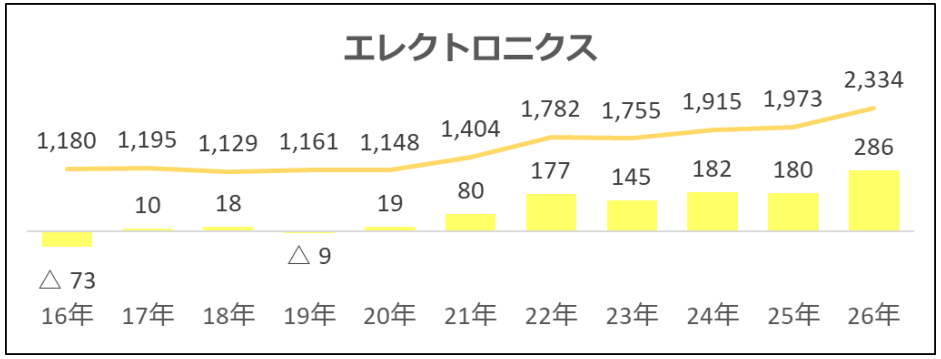
折れ線:売上高　縦棒:営業利益　（単位:億円）

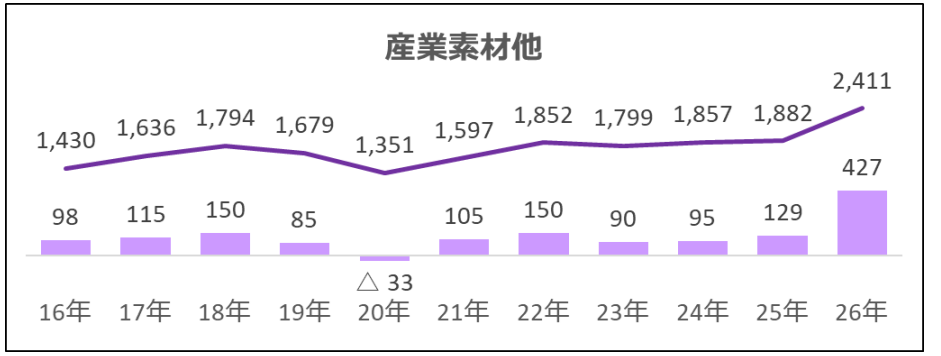








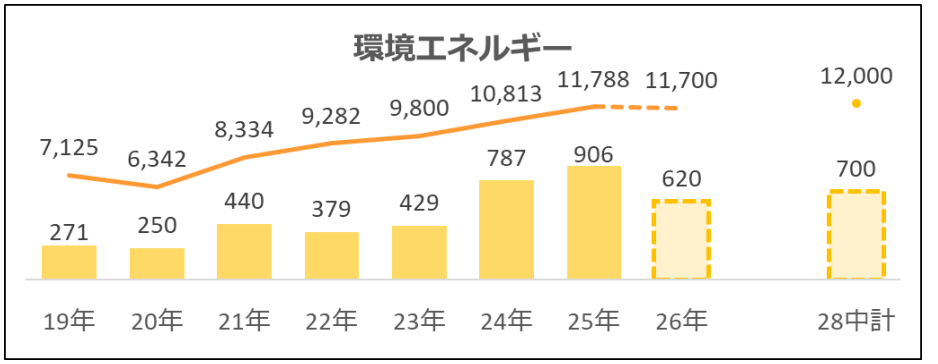


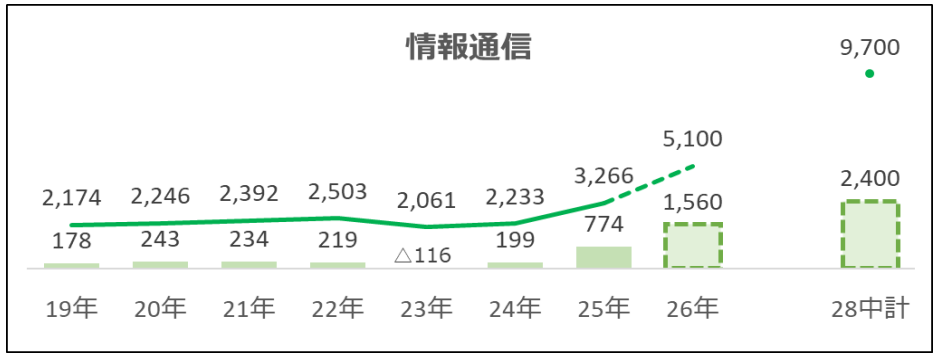


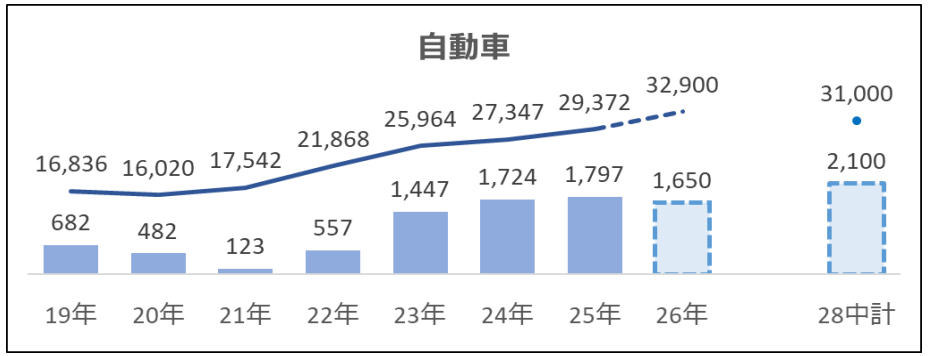
（ご参考）通期業績推移

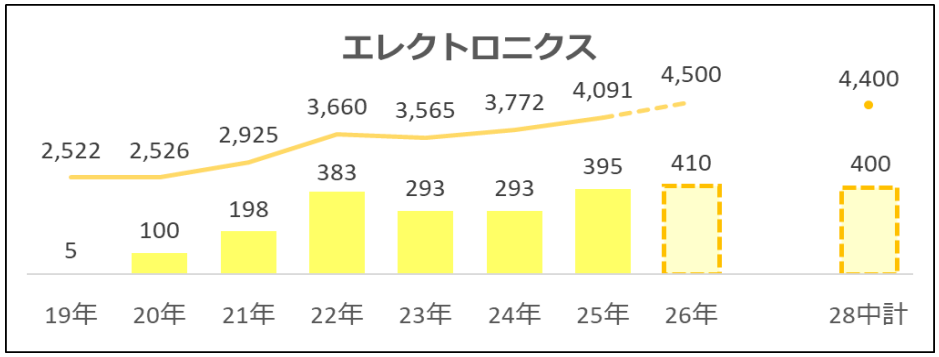
折れ線:売上高　縦棒:営業利益　（単位:億円）

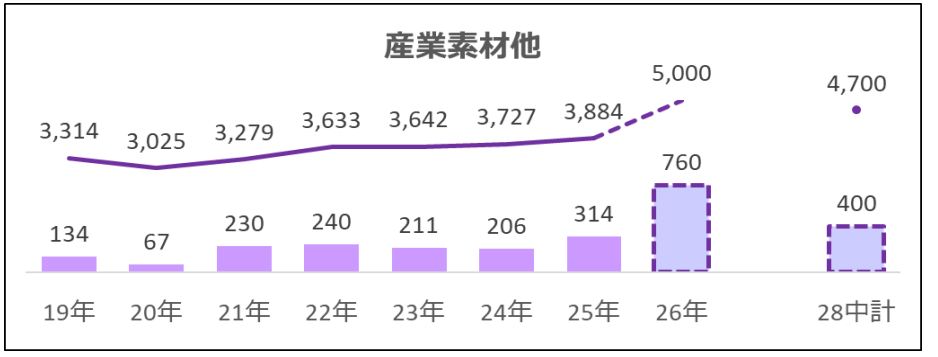






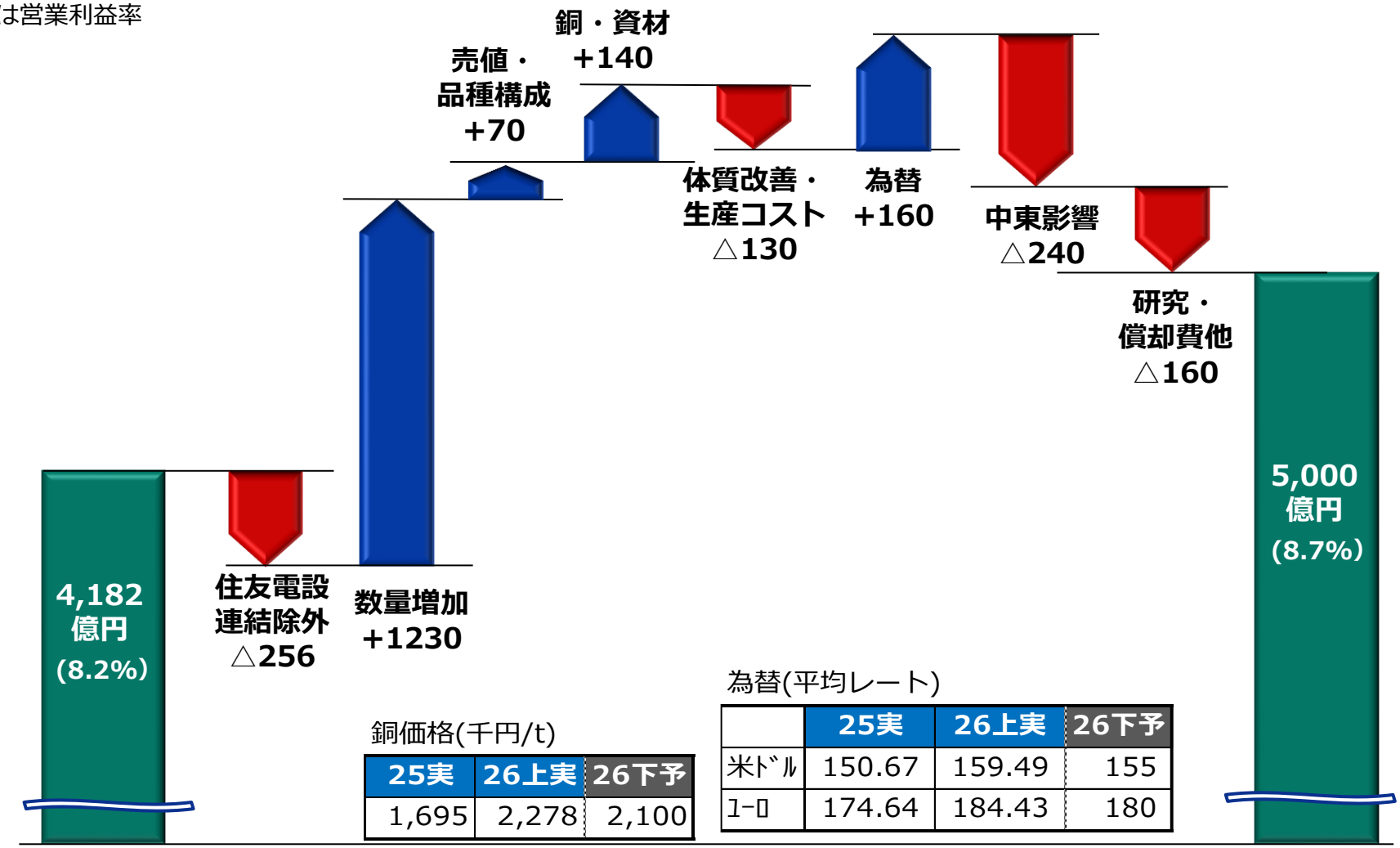






（ご参考）営業利益の増減益要因

(%)は営業利益率



銅価格(千円/t)

25実	26上実	26下予
1,695	2,278	2,100

為替(平均レート)

	25実	26上実	26下予
米ﾄﾞﾙ	150.67	159.49	155
ﾕｰﾛ	174.64	184.43	180

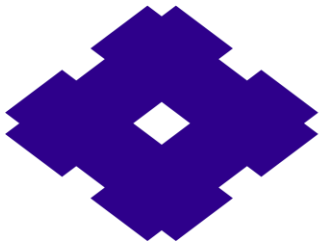
将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
・急速な技術革新と当社グループの対応能力
・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。



住友電工

Connect with Innovation

https://sumitomoelectric.com/jp/

SUMITOMO
ELECTRIC
GROUP